

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300404		
法人名	有限会社 よしお か		
事業所名	グループホームあじさいの家	ユニット名	
所在地	長崎県諫早市飯盛町後田1643-1		
自己評価作成日	平成25年2月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを計画しそれを実施できる様に職員全員で話し合いをしています。残存機能を活かす方法として、自分の事(洗濯物干しやたみ等)は、毎日の日課に取り入れています。ホームが不衛生にならない様に心掛けています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成25年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームあじさいの家”は、社長が大好きな花“あじさい”がホーム名となっている。ひとつひとつの花が仲良く寄り添い、見事な花を咲かせる“あじさい”。日々の暮らしの中でも“皆仲良く”暮らせるように職員はアテアを出し合い、職員の意見を着実に活かしていく社長や総括、介護主任やケアマネの方の力も結集し、更なるチームワークを作り続けている。フラワーアレンジメントを教える職員、衣装作りが上手な職員など、個々の職員の力が引き出されている。優しい職員が多く、利用者の思いに寄り添い、生活歴やご本人のストレスも含めて職員が受け入れるようにしており、ご自分の部屋を職員と掃除をしたり、一緒に洗濯物を片付ける等の役割を担って頂く事で、精神的に安定してこられている。家族への想いが強い方には手紙を書く取り組みも行われ、字の練習をする事から始めた方もおられる。今後は頑張ってきてこられた軌跡を、家族の協力も頂きながらアルバムや自分史と言う形で残していければと考えており、センター方式も活用してアセスメントを深めていく予定である。25年度に新設される併設施設の看護師や理学療法士にも相談できる体制ができ、更なるチーム強化が期待できるホームであった。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを大切にその人らしく暮らしていただける様に職員一同理念を共有して生活して行ける様に努力している。	「ゆとりある心で皆仲良く過しましよう」と言う理念の、“皆仲良く”という言葉の中には家族や地域の方々も含まれている。“介護の心得(4項目)”も作られ、その人の気持ちになって、同じ目線で介護をするように努めている。感情が不安定になり、外に行かれる方も、職員の関わりによって落ち着かれる事が増えてきている。	“ゆとりある心”を持てるように、業務改善も続けている。職員のチームワークも良く、ご本人の想いに添えるように全員でアイデアを出し続けているが、今後はミーティング時などに、理念の取り組みを振り返る機会を作っていく予定にしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事等近所の方へ声かけしている。自治会へも加入している。	地域交流は日常で、ホームの夏祭り等では地域の方がカラオケ機材を持参して下さり、皆さんで合唱されたり、敬老会には踊りを披露して下さっている。後田地区子供会の子供達が母の日にカーネーションを持ってこられ、利用者の方も喜ばれている。神社の子供相撲では一番良い席を準備して下さり、利用者の方も元気に応援をされている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護認定に関しての相談や、介護方法等の相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新たに地域の交番の方へも参加して頂きサービス向上に活かせるように努めている。	利用者の状況報告と共に、行事や研修報告も行われ、行事のビデオを見て頂く事もある。参加者からの意見やアイデアも多く、地域の“いきいきサロン”への参加などを提案して頂き、地域の方と“草履作り”を楽しむ事ができた。頂いた意見により、保育園児との交流やボランティアの来訪等に結びつける事ができている。	今後も、会議の中で頂いた意見を日々の生活の中に活かしていきたいと考えられている。会議の場に他の職員が参加する機会を作られたり、会議内容を全職員に周知し、職員全員で取り組みのためのアイデアを出し合っていく予定にしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごとに担当者の方へは連絡をとり書類や制度上の問題等の相談は行っている。その時は担当者の方も良く相談にのって下さっている。	市役所の担当者とは顔馴染みの関係であり、書類の書き方などを丁寧に教えて下さっている。運営推進会議の議題や進行の仕方を相談した時も、具体的なアドバイスを下さり、会議の中で活かさせて頂いている。お願いすれば、本庁からも運営推進会議に来て下さり、認知症講演会などの情報提供もして下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室は施錠はしていない。又、過去にも行った事はない。	感情が不安定になられる方には、生活歴やご本人のストレスも含めて職員が受け入れるようにしている。個別ケアも行い、ご自分の部屋を職員と掃除をしたり、一緒に洗濯物を片付ける等の役割を担って頂く事で、精神的に安定してこられている。家族にも身体拘束をしない方針を伝えると共に、リスクの説明も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修会やシンポジウム等への参加をしている。ミーティング時、常に話し合い、入居者様の身体の変化等見過ごさないようにしている。悩みや不安は一人で抱え込まない様に協力し合っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員にも理解して貰う様にして、入居者様の権利が受け入れられるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時には、十分に説明を行っている。ご家族の方とは、納得されるまで何回も話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の不満や要望は職員がいち早く気付き対応している。ご家族様からの要望等も気軽に相談して頂ける雰囲気を作っている。又、さわやか介護相談員(市より派遣)にも、定期的に来て頂いている。	面会時に要望等を伺うと共に、連絡ノートも活用している。家族からセンサーマットの依頼があったが、マット自体が拘束とみなされる時もあり、家族の方と入念に話し合いが行われた。家族の不安な気持ちを理解すると共に、ご本人本位の話し合いも続けられている。家族がチューリップの球根を植えて下さるなど、協力的な方が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングや、毎日の申し送りの時間を利用して意見を聞いている。	職員のアイデアは多く、毎年の敬老会でも、22年度は温泉、23年度はホテルで行い、家族の方も一緒に楽しめた。24年度は地元飯盛町の風景をビデオで撮り、その風景が投影された。社長がバスガイド役になり、内容に応じた衣装で職員が登場するなど、見事なチームワークを発揮された。芸達者な職員が多い。	アイデアと結束力は抜群であり、今後は更に早目に計画を立て、職員全員で流れを決める話し合いを持つと共に、自らが率先して行動に取り掛かり、他の職員との協力体制を整えていく予定にしている。全職員が発言できる雰囲気作りにも努めていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、賃金に対しては不満があるようだ。資格を取る際の研修費・交通費の助成や、シフト等の配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の要望があれば行ける様にシフトの考慮や研修費用の助成を行っている。必要な研修には行って貰っている。研修予定は自由に閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の定例会や研修会、ボーリング大会へ出席し交流をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で機会があれば横に座り世間話や昔話をしながら信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問等行い、生活状態を把握出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に生活状態を把握出来る様努め、ご家族の不安や要望に添えるようしている。当施設でできないと判断すれば丁重にお断りする場合もある。他施設を紹介したり情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	極力出来ることはして頂き、洗濯物干しやたみ、食器拭き等一緒に行っている。気候が良くなれば庭の草刈を一緒に行ったり。悩みや相談も聞いて頂いたり聞いたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント等、ご家族を招待し一緒に過ごせるよう配慮している。又面会時等は、日々の生活の様子を伝え、足りない物があればご家族に用意して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用しておられた美容室の病院等の利用をしている。	地域の方が多く、馴染みの方が「顔を見に来た」と言って寄って下さる方も多い。利用者の自宅周辺をドライブしたり、馴染みの海や山が見える場所に行き、職員が風景を説明しながら、少しでも思い出して頂けるように努めている。馴染みのスーパーや駄菓子屋にもお連れし、病院の待合室でも馴染みの方と交流されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間は皆さんがリビングで過ごされる事が多い。レクレーションの時間を設け体操やゲーム等皆さんで楽しんでいる。気の合う入居者様同士席を隣り合わせにしたり、協調性の無い方に対しては職員が関わり孤立がないように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居しておられた方は地域の方が多く、家族の方とも時々顔を合わせる事がある。そのような時は近況をお聞きしたりして自然な付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議や日々の生活の中で関わりお聞きし把握出来る様に努めている。	利用者・家族・担当者・ケアマネの方々とサービス担当者会議を開き、希望や意向を把握するようにしている。その場ではなかなか希望や意向を伝えられない方に対しては、日々の生活の中で職員が関わり、さり気なくお聞きするようにしている。今後も更に、家族の方に生活歴や日課などを教えて頂く予定にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については入居される際ご家族からお聞きしている。ご本人との会話の中でも差し障りないようお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を日誌に記入したり、申し送り時にも報告する等して現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや申し送り時に色々な意見を出し合って、その方に合った介護計画を立てている。	担当者会議で生活習慣を活かしていく方法を検討している。買い物に行かれていた方には、職員と買い物に行く機会を作られたり、家族への想いが強い方には手紙を書く取り組みも行われ、字の練習をする事から始めた方もおられる。洗濯物干し・食器拭き・散歩・買い物・五目並べ・草取りなども計画に盛り込まれている。	頑張って生きてこられた軌跡を、家族の協力も頂きながらアルバムや自分史と言う形で残していければと考えている。センター方式も活用してアセスメントを深めると共に、職員も一緒に“一部介助”の詳細(できる事など)をアセスメントや3表に追記していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個人記録等に行ったケアを記入して職員全員が目を通すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅へ外出される際、ご家族から食事の申し出があった場合(ミキサー職)等、対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアグループの方の協力を得ながら行事食を一緒に作ったり、公民館で行われているいきいきサロンへ出向き菓草履を作るなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の定期受診を行っている。状態に変化があれば、それに応じた医療機関を紹介して頂くなどしている。	利用者と家族が希望する医療機関への受診が行われている。遠方も含めて職員が受診介助し、必要に応じて家族も同行して頂いており、受診結果の共有もできている。24年度は歯科の先生が往診して下さるようになり、25年度は併設施設の看護師やPTIにも相談でき、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時、状態等を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、担当医師と話し合い情報交換をしながら、退院後の支援が適切に行えるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状や病気の種類によってはご家族と相談し、病院にも同行するようにしている。	入居時に、「病状が悪化し、入退院を繰り返される場合や医療的ケアが必要になる場合等は設備的に無理があり、支援できない事」を家族等に説明し、同意して頂いている。看取りケアは行ってないが、入院ぎりぎりまで看れる限りは介護していきたいと考えられている。重度化を予防するために、体操や廊下を歩く、散歩、レク(漢字など)など、日々の生活リハビリに取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、全員の職員が、救命研修を終えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や職員の緊急連絡網を作ったり、火災や水害が起きた時の為にご入居者様が避難出来る場所の提供等、地域の方をお願いしてある。	スプリンクラーを設置しており、全て防災カーテンにしている。各居室の避難の確認が終了したら、ドアの横に設置しているライトを付けるシステムになっている。24年3月には利用者と消防署の方と夜間想定訓練が行われ、24年10月には利用者と昼夜想定自主訓練を行っている。消防団の方にもホーム内を見て頂き、備蓄もしている。	火災を想定しての訓練は定期的に行っている。今後は地震や水害(津波)等の自然災害に備えた訓練方法の検討を続けていく予定にしている。地域の安全マップなどをもらいに行くと共に、秋からは隣接する施設と合同で訓練を行う予定にしている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや、排泄時の気配り等対応を心がけている。	利用者が理解しやすい方言でゆっくり話している。介護の心得にもある“同じ目線で丁寧に”を心がけ、言葉遣いや排泄時の気配り(必ず扉を閉める等)も続けている。職員が十分にできていないと気付いた時には注意しているが、今後も言葉遣いを含めて、お互いに注意できる関係を築いていく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う際は、ゆっくりわかりやすく声かけを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調等に配慮しながら、入居者様のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目には担当職員が衣類の入れ替え等をしている。理美容院へは定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食やおやつを一緒に作ったりしている。食事の下ごしらえ、下膳や食器拭き等出来る方にはお願いしている。	調理専門の方が3名おられ、地元の食材を使った美味しい料理が作られている。利用者の方はツワの皮むきやゴボウのささがきなどのお手伝いをして下さり、行事食(恵方巻き)やおやつ(プリン・たこ焼き・ホットケーキ)作りも一緒にされている。忘年会では鍋を楽しまれ、日頃から職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定を行ったり、体調の把握をしながら個々の食事の量の調整を行っている。状態に合わせて、刻み食や、ミキサー食にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアをして頂いている。状態に応じ支援をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら定期的な声かけと誘導をおこなっている。	日中は布パンツの方も多い。リハビリパンツで過ごしておられた方も、個別の誘導を行う事で布パンツ(＋パット)で過ごせるようになった方もおられる。失禁時には周りの方に気付かれないように小さな声で誘導し、頻尿の方も見守りを行い、必要に応じて主治医にも相談している。毎朝の清拭も続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に考慮し食事内容や水分補給に気を付けている。又、主治医に相談し個々に応じた対応を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、入居者様の状態に応じ変更を行なっている。個々にそった支援ができるよう努めている。	好みの湯加減などを確認しており、希望に応じて固形石鹸も用意している。気の合う方が2人で入浴される事もあり、利用者同士や職員との会話を楽しむと共に、柚子湯もされている。拒否される方には入浴とは別の話題をするなど、声かけの工夫を続けており、対応が上手な職員の支援方法を職員間で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実させ、夜間は安眠して頂けるよう努めている。寝付けない方には、飲み物をお出ししたり、会話をする等し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は医師の指示通りに行なっている。受診時、薬の変更があればその都度受診ノート等を利用しながら確実に申し送るようになっている。また必ず、薬表を出して頂き、確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活においては、洗濯物たたみや食器拭き掃除とできる事をして頂いている。ドライブや行事等も計画し気分転換や楽しみになるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ、お花見やドライブ等行なっている。個別に買い物や散歩など行なっている。	ホーム周辺を散歩したり、草取りもして下さっている。長崎市近隣公園や諫早公園に出かけたり、スーパーで好きなお弁当を選んで頂き、お花見に持参している。帰宅願望のあらわれる方には、自宅に一時外出できるように家族に相談し、外出時はミキサー食の提供や車椅子の貸し出し等も行われた。家族と一緒に外食を兼ねてドライブに行かれたり、法事に行かれる方もおられる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ出かけた時には、個々にお金をお渡しし支払える様な支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日ご家族へ電話をされる方がおられる。電話が無い日はご家族も心配をされるので、途切れないよう支援をしている。字が上手く書けなくなってこられた方については、一緒に字の練習をしたりして、手紙が書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節に応じた壁飾りやカレンダー等製作している。共有空間では、明るさや温度の調整は常に行なっている。	リビングは床暖房になっており、絨毯を敷いている事もあり、利用者も職員も靴下のままで移動されている。対面キッチンであり、リビングのソファ等に座っておられる利用者との会話を楽しまれている。壁には職員が描かれた絵や誕生月の利用者紹介もあり、職員手作りの作品は温かさを感じる事ができる。畳の間に上げられる方が少なくなり、今後の活用方法が検討されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士会話しやすい席の配慮をしたり、独りが好きな入居者様には好きな様に出来る工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や筆筒など自宅から持って来られた物を置くようにしている。	和室と洋室があり、希望に応じて洋室に畳を敷く等の工夫もされている。トイレがある部屋も2つあり、夫婦部屋も準備されている。鏡台や置物などを持ち込まれている方もおられ、ランタンの飾りや写真等も飾られている。家族にもゆっくり過ごして頂けるように、ホームのソファや籐の椅子を使って頂いている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所には目印をつけたり、廊下他手すりを設置し安全に歩行出来る様工夫をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 頑張っ生きて来られた軌跡を、家族の協力も頂きながらアルバムや自分史と言う形で残していければと考えている。センター方式も活用してアセスメントを深めると共に、“一部介助”の詳細(できる事など)をアセスメントや3表に追記して行く予定である。	利用者の思いに沿ったケアプランになるよう努める	・センター方式を取り入れて活用しながらアセスメントを深める。	12 ヶ月
2	1 (1)	○理念の共有と実践 “ゆとりある心”を持てるように、業務改善も続けている。職員のチームワークも良く、ご本人の想いに添えるように全員でアイデアを出し続けているが、今後はミーティング時などに、理念の取り組みを振り返る機会を作っていく予定にしている。	理念の共有と実践に努める	・ミーティング時理念の実践について、先ずは出来ている事(頑張っている事)から意見を出し合い振り返りの時間を設ける。	12 ヶ月
3	11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 アイデアと結束力は抜群であり、今後は更に早目に計画を立て、職員全員で流れを決める話し合いを持つと共に、自らが率先して行動に取り掛かり、他の職員との協力体制を整えて行く予定にしている。全職員が発言できる雰囲気作りにも努めていく予定である。	全職員が発言できる雰囲気作りにも努める	・ミーティング時の議題等は数日前に全職員に周知しておく。	12 ヶ月
4	4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 今後も会議の中で頂いた意見を日々の生活の中に活かして生きたいと考えている。会議の場に、他の職員が参加する機会を作ったり、会議内容を全職員に周知し、職員全員で取り組みの為のアイデア出し合っ行く予定にしている。	運営会議の意味を全職員が理解し、もっと活かす工夫に努める	・議題を職員からも募る。 ・全職員が交代で会議に参加出来るようなシフトを考慮する。	12 ヶ月
5	35 (13)	○災害対策 火災を想定しての訓練は定期的に行っているの、今後は地震や水害(津波)等の自然災害に備えた訓練方法の検討を続けていく予定にしている。地域の安全マップ等をもらいに行くと共に、秋からは隣接する施設と合同で訓練を行う予定にしている。	災害対策の更なる徹底を図る	・地震や水害(津波)等自然災害に備えた訓練方法を検討する。 ・地域の安全マップをもらいに行く。 ・4月に新設されるデイサービスやサ高住と合同での訓練を行う。	12 ヶ月